

共感と協働

飯舘村の生活・産業の再生 に向けて

2014年3月

特定非営利活動法人ふくしま再生の会

四季折々ー自然豊かな飯舘村



春



夏



秋



冬

自然の恵みの中で生命を育む暮らし・産業



米作



畜産(飯舘牛)

目次

これまでの経過

チャレンジ1: 汚染の実態を正確に知る

チャレンジ2: ふるさとと農地を取り戻す

チャレンジ3: 農業の再生

チャレンジ4: 産業の再生

チャレンジ5: 健康・医療・ケアの試み

チャレンジ6: 世界へ伝える

チャレンジ7: 福島飯舘村の再生とは何か？

まとめ

東京電力福島第一原子力発電所の事故



海外で公開されている Air Photo Service Co. Ltd による福島第一原子力発電所事故現場

汚染されてしまった土壌

セシウム137による汚染状況

飯舘村の汚染はおよそ

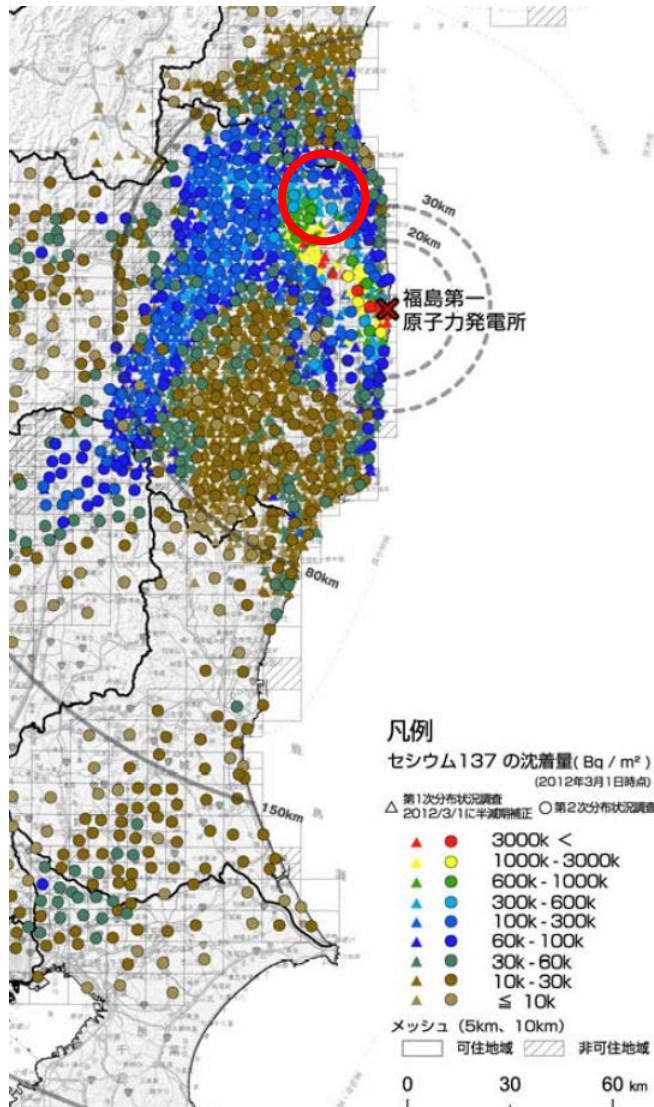
$30,000\text{Bq/m}^2 \sim 1,000,000\text{Bq/m}^2$

セシウム137の各種分析結果

(文科省による調査結果2012年3月1日時点)

村へ帰ることはできるのか？

農業を再開できるのか？

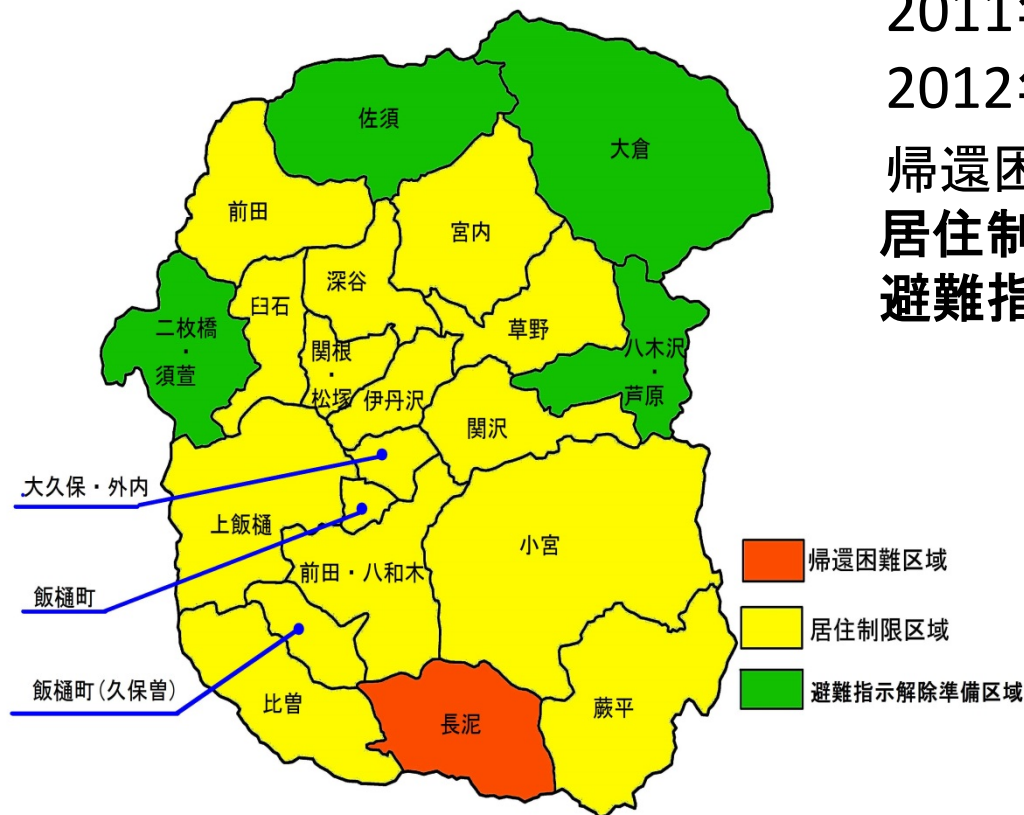


セシウム137の各種分析結果(文科省による調査結果 2012年3月1日時点)

http://radioactivity.mext.go.jp/ja/contents/7000/6213/24/338_0912_18_rev0914.pdf

現状

飯舘村は避難指示区域



2011年4月計画的避難区域

2012年7月 3区分に再編成

帰還困難区域 (推定年間50mSv超)

居住制限区域 (同 20mSv～50mSv)

避難指示解除準備区域 (同 20mSv以下)

- 村内活動には制限
- 除染は国の責任で行う
- 2014年度 居宅除染
- 2015年度から農地除染
- 山林除染はしない
- 各地区田圃に仮々置き場
- 賠償は不確定
- 専門的な知識が必要

被災者自身が手を出せない状況

飯舘村村民と「ふくしま再生の会」との出会い

2011年6月、田尾陽一（現在「ふくしま再生の会」代表）を中心に15名ほどのグループが訪問。協働を申し出る。

合意事項：

福島第一原子力発電所の事故は、明確な人災である

原子力発電所はそもそも事故を収束させる技術を当然持っているべきである

村民が帰村して安心して農業を営み生活できる施策を打つべきである

避難中の留守宅、農地、山林などを使って調査と実験を行っていくことを確認。

福島だけの問題ではなく世界の問題である

得られたデータをすべて再生のために行政へ提供し提言を行う

グループは「ふくしま再生の会」として発足。

共感し協働が始まった

「ふくしま再生の会」とは

目的

原子力災害によって破壊された被災地域の生活と産業の再生。

運営

ボランティアによる運営。資金は、会費と寄付。2012年7月にNPO法人化。
個人会員250名、団体会員6団体(2014年1月)。
複数の研究機関、大学研究室と協力している。

活動指針

「被災現地において」「継続的に」「被災者と協働して」

現在の主な活動内容

- ・放射線計測と放射能分析
- ・除染実験(住居、農地、山林)
- ・農業再生のための計測と実験
- ・世界へ情報発信
- ・被災者のケア

再生への道

共感と協働

自立した個人ボランティア
多様な層の参加による活力
ネットワーク
広い視野
職業経験／専門知識・技術
柔軟な対応
きめ細かいケア

自立再生への力
経験・知識・技術
伝統、文化、知恵

村民

分断を乗り越える協働が必要
いいたて協働社

共感と協働



地域再生を目標

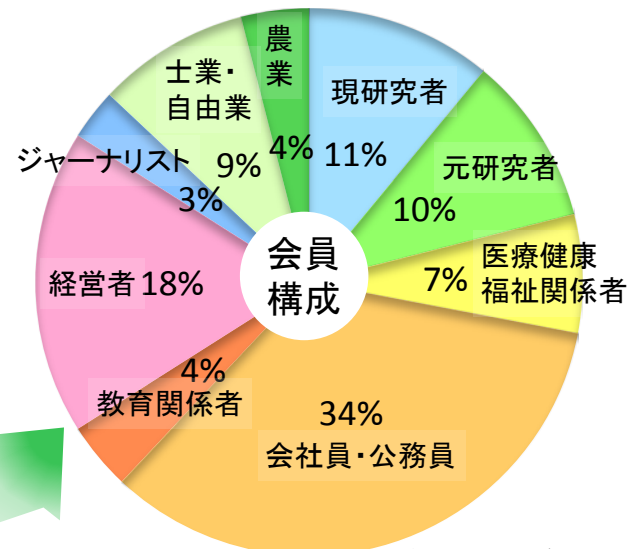
特定非営利活動法人(NPO)

専門知識・技術

大学・研究機関

専門を超えた協働が必要

個人会員250名・団体会員6団体
理事7名・監事2名



(2014年1月現在)
(認定NPO申請中)

公共サービス

行政 (国・県・村)

縦割り・横割りの克服が必要

チャレンジ1: 汚染の実態を正確に知る

村民・ボランティア・高エネルギー加速器研究機構の協働プロジェクト

■ 放射線モニタの開発

GPSと線量計を内蔵し、位置と線量を自動的に記録できる



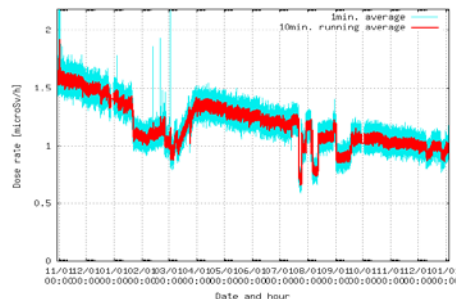
■ 放射線量の定点観測

気象データ)と線量データを記録。G3回線経由で定期的にサーバーに送信。太陽光パネルで電力供給



■ 放射線量マップの作成

村民自身が測定し、詳細な線量マップを作成、汚染の実態を把握する



チャレンジ1: 続き

■ 大気中の塵(エアロゾル)の放射能測定

No	Date/time	m ³	Bq/m ³		
			Cs-134	Cs-137	Total
No.1	Mar.20 14:10 - Mar.31 11:46	7847.6	0.000328	0.000484	0.000812
No.2	Mar.31 11:50 - Apr.8 17:28	5926.2	0.00165	0.00233	0.00398
No.3	Apr.8 17:40 - Apr.14 11:00	4122.2	0.0005	0.000697	0.0012

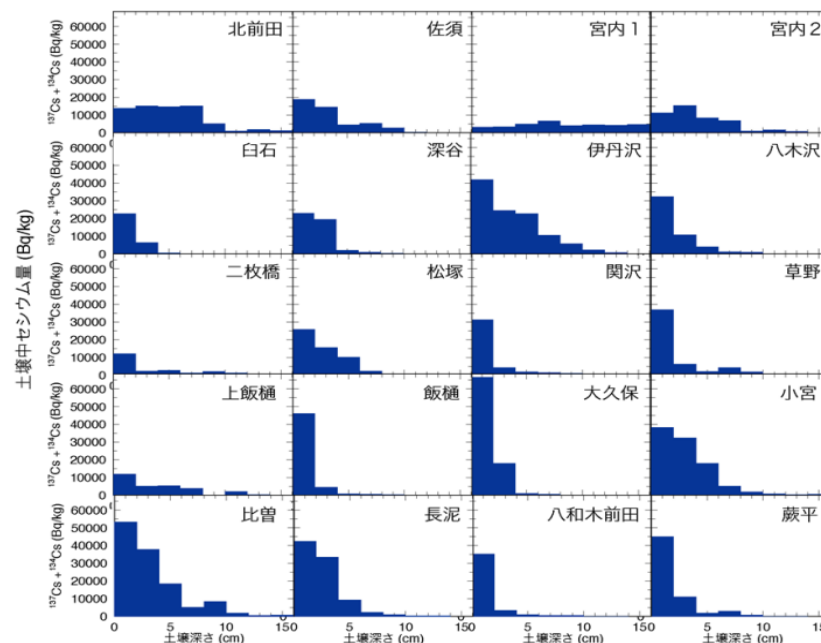
村民・ボランティア・国立環境研究所の協働プロジェクト。



■ 農地の土壌放射能分析

村内20か所の農地の土壌を、深さ15cmまで円筒状にサンプリングし、2cmごとに切断し放射能を測定

土壌のサンプリング器具



チャレンジ1: 続き

■ イノシシ・プロジェクト 村民・ボランティア・東京大学農業生命科学科の協働プロジェクト



- 全村避難で無人となった村ではサル・イノシシが増えている。
イノシシは農地を荒らし、農地除染を困難にしている。
チェルノブイリ後のヨーロッパでもイノシシの汚染は継続している。
- イノシシを捕獲、解剖。部位ごとに放射能測定。
今後継続して測定していく予定。

チャレンジ1: 続き

◆ 継続的な測定体制を強めるための組織化

- 行政・ボランティアが測定したデータをデータベース化
- 土壌・作物の放射能データ
- 専門家によるデータ監修
- 村民3人で合同会社いいたて協働社 を設立

村民が主体となって測定・データ管理・分析・情報提供を 担う組織

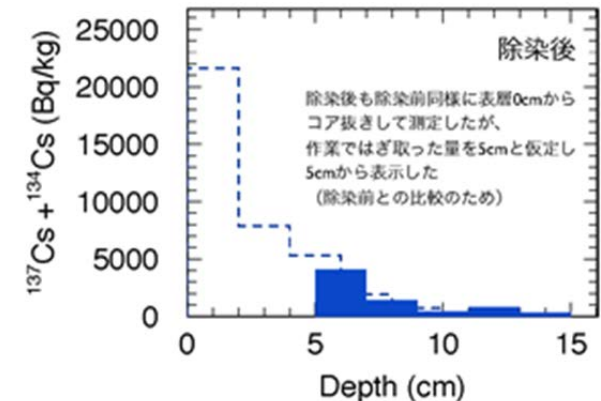
信頼できる環境モニタリング体制の確立が必要

チャレンジ2: ふるさとに農地を取り戻す

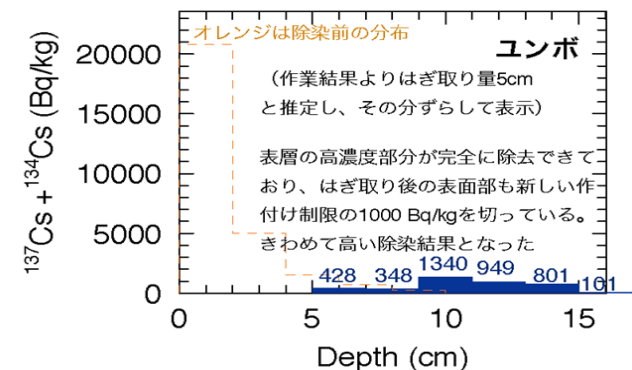
農民自身でできる除染法の開発

■ 農地の除染実験(1)

➤ 農地に水を引き入れ、表層5cm程度を泥水状にして洗い流す



➤ パワーショベルにより表層5cmの土をはがす



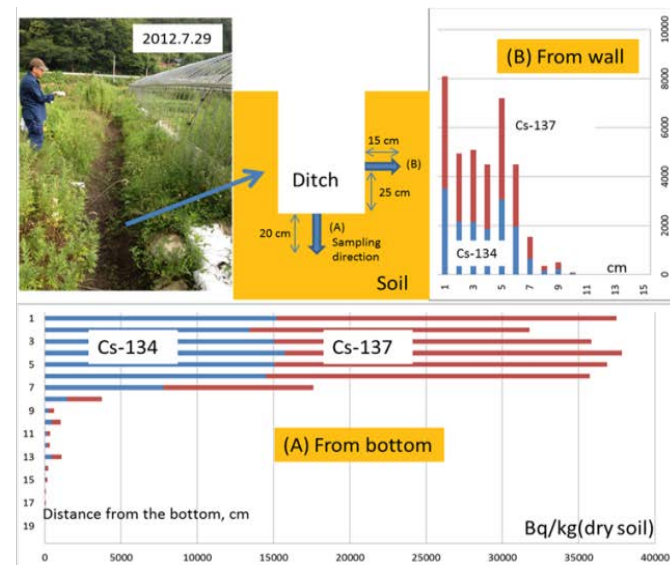
チャレンジ2: 続き

- 農地の除染実験(2) 村民・ボランティア・東京大学農業生命科学科の協働プロジェクト
表層5cmの土壌をはぎとり、埋設する。(凍土は簡単にはぎ取れるが期間が限られる)。



除染土壌の処理

洗い流した泥水を溝に蓄積しておき、干上がった後に溝の底と側面の土壌をサンプリングして深度別に放射能測定した結果。

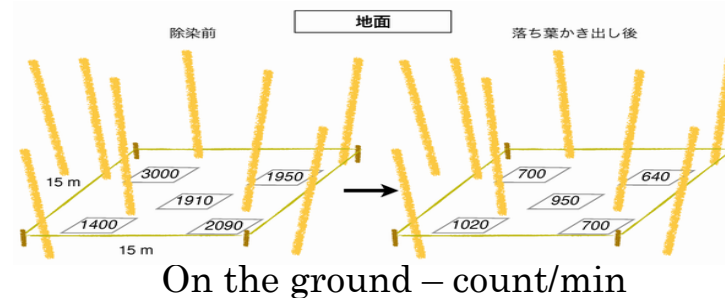
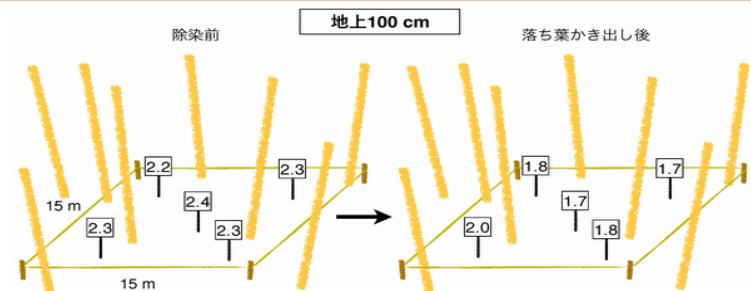


セシウムは土の中に浸みこまない

チャレンジ2: 続き

■ 山林の除染

広葉樹林の落ち葉を掃き出す除染実験



■ 住居の除染



裏庭の林が住居の線量に影響を与えていると思われる



裏庭の林の枝打ち



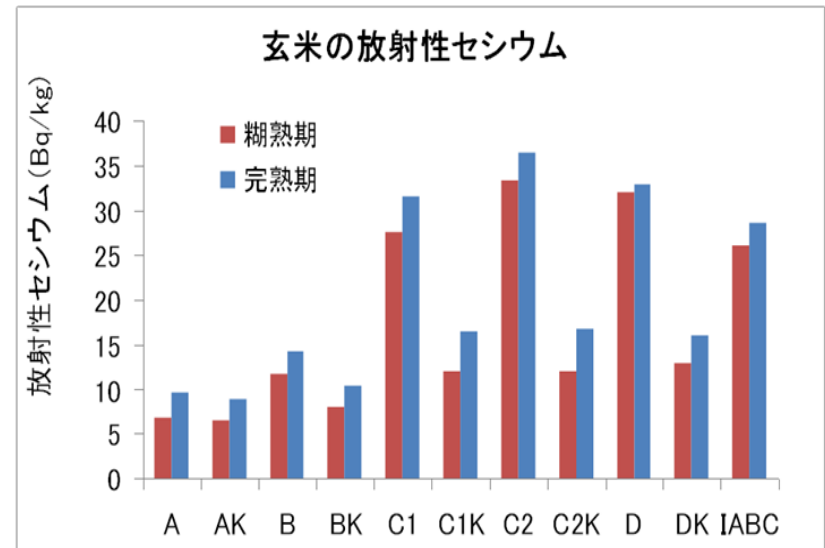
裏庭の排水路の整備

チャレンジ3: 農業の再生

■ イネの試験栽培

飯舘村では米の作付け禁止
実験のための作付けも認められなかった
つくばの農研機構との研究協定により
作付け実験実現

玄米 40Bq/kg未満
白米 10Bq/kg未満



チャレンジ4: 産業の再生

■ “再生の灯”小水力発電ピコピカの設置



チャレンジ5：健康・医療・ケアの試み

■被災村民の医療・看護・ケア活動

医師・看護師・ソーシャルワーカー・
心理カウンセラー・支援者などが訪問支援。

いいたてホームに、会員の看護師がボランティア
支援を定期的に行っている。



■避難住民の健康増進活動

しっかり歩行、筋トレ、ストレッチの
3点セットを実施。



チャレンジ6:世界へ伝える

- 福島原発事故は世界の問題
- 今の福島にしかない現実、風化していく現実が伝わらない
- ICTと人のネットワークで発信

SkypeとUstreamで、
東京・京都の大学と
飯舘村をつなぎ
在日留学生と討論会。



Skypeを使った避難者の
健康相談



「飯舘村村民とふくしまの再生を語ろう」
を東京で開催。
Ustreamで中継(延べ6,000人以上が視聴)

チャレンジ6: 続き

- SGRAスタディ・ツアー「飯館村へ行ってみよう」 第1回2012年10月、第2回 2013年10月
韓国、シンガポール、ノルウェイ、台湾、中国、フィリピン、スペイン、ドイツ、ハンガリー、シリア、アメリカ、日本などの人々が訪問



長泥地区へのバリケードを視察



飯館村3小学校の仮設校舎訪問



村民の自宅で懇談

- スウェーデン災害対策調査団
スウェーデン大使館の依頼により
村内の視察をコーディネート



菅野宗夫さん宅で懇談



村民宅のイグネで放射線測定

チャレンジ7：福島飯舘村の再生とは何か？

■ 福島県飯舘村の現状

- 被災から3年が経過
- 全村避難のまま
- 除染はもとより、生活・農業再生の目処は付いていない
- 事故責任のある政府や関係者は、再生の総合施策を持っていない
- 被災村民は物理的・精神的に分散化を強いられ、再生の困難さは増していく。

この状況を打開する方策が必要

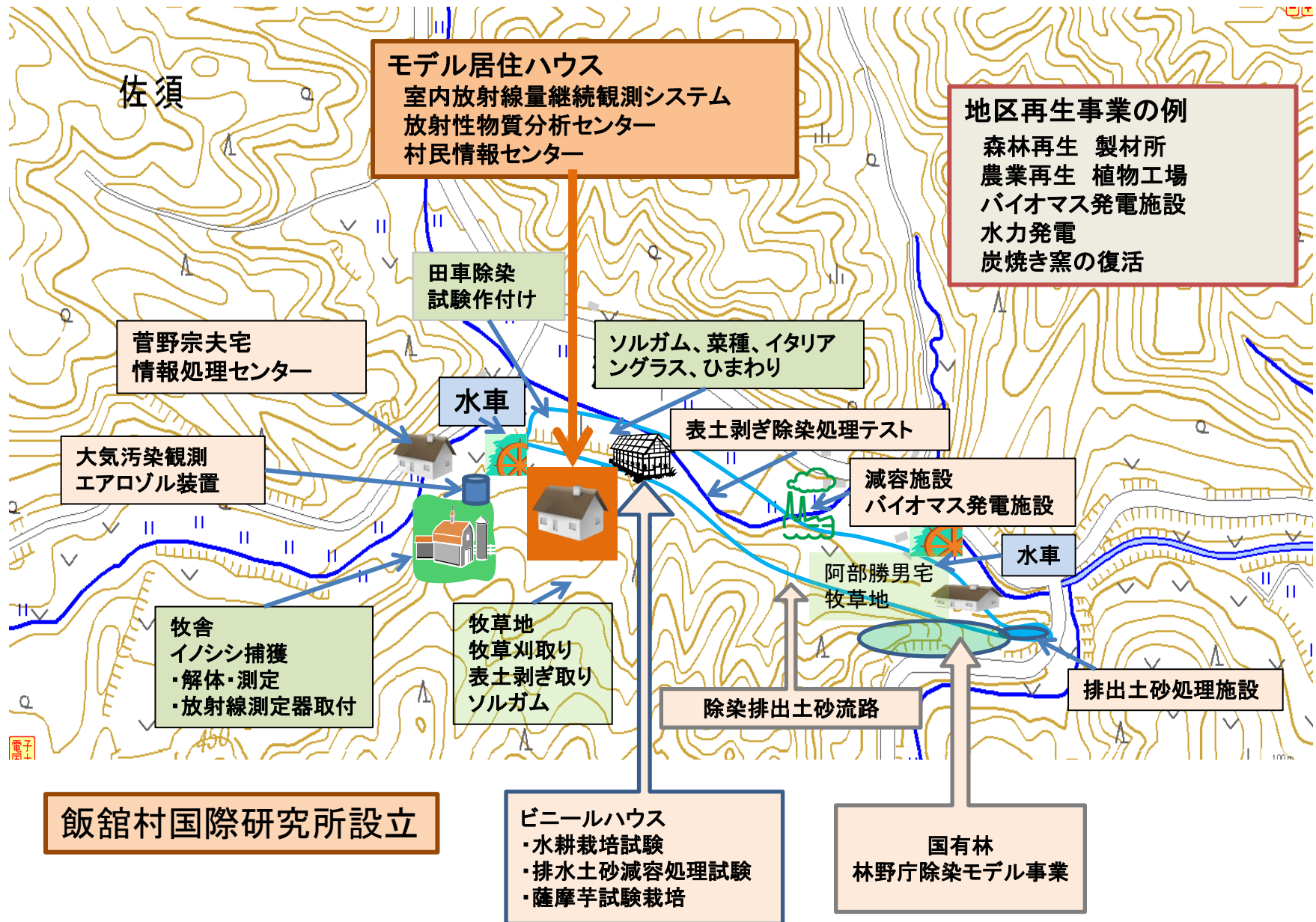
チャレンジ7 : 続き



■ 飯舘村を再生する意味

- までは、やさしい・丁寧な・ゆっくりと言う意味である。
- までの村づくりを持続する
 - ・ 伝統・文化の重要性
 - ・ 自然と共存した丁寧な生活形態の創造
- 21世紀社会における意義
 - ・ 近代化目標は世界的に経済成長・科学技術振興のみ
 - ・ 世界的な行詰まり
 - ・ 世界で新しい社会目標の再構築
- 持続可能性のある生活・産業の追求
 - ・ 飯舘村は、現代の社会システム改革の最前線
 - ・ 飯舘村で、食料問題・エネルギー問題・高齢化問題の解決策を試みる。
- までの生活デザインは、自然・人間・産業の持続可能な関係性・共存性構築への可能性を持っている。
 - ・ 21世紀の“トータル システム”の可能性。
 - ・ 福島・飯舘村の可能性の無視は、日本の将来性の放棄である。

飯舘村佐須滑地区 再生モデル事業コンセプト



まとめ

まずは現場を見ることが大切
現場にあった総合的な再生方法を考える

老若男女、地域・組織を越えた「共感と協働」
農家の知恵の中にヒントがある
自分にできることを持ち寄る
あらゆる人材・知識を総動員する

一刻も早い行動
考えながら走る！ 走りながら考える！！
組織や制度に囚われないで柔軟に対応する
専門家・市民の役割が問われている





ふくしま再生の会の活動については、以下にては、以下にてご覧いただくことができます。
また、入会のお申込みも随時うけつけております。

ホームページ

<http://www.fukushima-saisei.jp>

Facebook <Resurrection of Fukushima|ふくしま再生の会>

<http://www.facebook.com/user/FukushimaSaisei>

YouTube <fukusimasaisei>

<http://www.youtube.com/user/fukusimasaisei>

特定非営利活動法人 ふくしま再生の会

【東京事務所】 〒166-0004

東京都杉並区阿佐谷南3-37-2 第2大同ビル2階

Phone:080-8857-5197 Fax:03-5397-5180

Mail: desk@fukushima-saisei.jp